

フルサワ印刷株式会社 壁画プロジェクト





2022/1/23 完成

40年間の出会いとアート

1. 浮世絵 との出会い
2. Eastside Transition / 8.5House との出会い
3. 歌川広重 東海道五十三次からのAREA8.5
4. 葛飾北斎 富嶽三十六景に神奈川県二宮町
5. フルサワ印刷 壁画プロジェクト

1. 浮世絵 との出会い

スタートは、1980年代 浮世絵版画の多色刷り印刷



1. 浮世絵 2018年に浮世絵ノートを制作

「粋に使って」浮世絵ノート

二宮の印刷会社 和紙を製本



歌川広重の東海道五十三次、新紙幣の絵柄に使った、大波と富士山がある幕府北斎の富嶽三十六景シリーズもある。二宮駅北口商店街のフルサワ印刷の支店先。浮世絵を表紙と裏表紙にしたノートがずらりと並び、

中のページも独特の風合いを持つ和紙だ。一日の文化や歴史に興味を持ってもらえればと思う。事務所から声を掛けてきたのは、同社社長吉澤吉郎さん。倉庫に眠っていた大量の和紙を、10年ほど前から浮世絵ノートを作っていた。浮世絵を扱った複製画の企画販売や旅行のノベルティ製作をしてきた実績があった。このノ

トを仕事の関係者などに配布。今年春から支店先に陳列して販売を始めたところ、じわじわと人気が出てきたという。

大正3年に創業した同社の三代目を継いだ吉澤さんは、持ち前の行動力とアイデアで大手企業とも取り引きし、事業を拡大。少年時代から浮世絵が好きで、職入を控えて複製版を集めたことも。二宮町長を務めたとき、富嶽三十六景の「相州梅澤左」が地元の一宮であることをアピールした。スマホやパソコンが全盛の世の中で、和紙に手書き「ノートの使い方は入それぞれ。和紙は裏写りにくいのので、御朱印や旅行の記念スタンプを押ししたり、サイン帳にしたりするのいい」と古澤さん。笑顔が絶えない85歳は「入に喜ばれる、楽しんでもらうことが健康の秘訣」と話す。

フルサワ印刷会長の古澤さん(右)と社長で娘の真下さん。手にしているのは富嶽三十六景の「相州梅澤左」と「神奈川沖波裏」

2019年 11月29日号 No.1232

大塚・二宮・中井版



2021/11/7 国府津のBLEND PARKにてミラカン主催の”530CIRCUS” に出店



2. Eastside Transition / 8.5House との出会い

敷地对角線で最長の展示壁をもつ傾斜屋根のアトリエ付き住宅

2021/10

世界最大の建築系サイトArchdailyが公表した、2020年で最も参照された建築TOP100(全5500プロジェクト)にも、「8.5ハウス」は選ばれています。



8.5House : アートギャラリー 兼 住居



“住宅特集”の2020年4月号にも掲載される
特集／都市住宅2020 敷地の力を引き出す



齋藤隆太郎氏が作品名として“8.5House”



このプロジェクトは、広重が歩き描いた東海道沿いに建つ、画家と妻、幼児と夫の母が3世代で暮らす狭小アトリエ付き住宅（87.23m²）の計画である。自身の作品を飾る大きな展示壁を、敷地対角線に最大長確保して街に発信するという考えから設計が始まり、その展示壁で居住エリアとアトリエを分けることとした。そして大磯（8番目の宿場）と小田原（9番目の宿場）の間に位置する二宮町にアトリエを開き、施主自ら東海道五十三次の隙間を紡いでもらうことがテーマとなっている。

アトリエはただ絵を飾るための場所ではなく、ショップや寄合所として使ったり、ときに製作・生活シーンを曝け出し、〈8.5ハウス〉を現代的かつ社会実験的に街に開く。またオマージュの意も込めて、敷地北側の東海道に日が差すよう壁を兼ねた傾斜屋根とすることで、彫塑的な建築形態が現れつつも、街への圧迫感を軽減している。そして急勾配の傾斜屋根と平面対角線の展示壁がかけ合わされることで、立体図形的に「広い・狭い」「高い・低い」のたすきがけの空間が生まれる。日常生活の中にあえてスケール錯誤を発生させて身体性を揺さぶることで、画家にとっては想起の家となり、家族にとっては味わい深く住みこなす家となる。

（齋藤隆太郎）

アートギャラリー&ショップ 8.5House

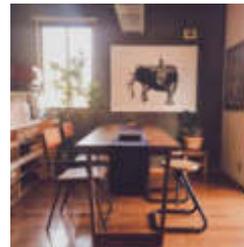


Eastside Transition
代表 野崎氏

アーティスト 乙部氏

2021/11/21 JR東日本 横浜支社
『鉄道発祥の地 横濱プロジェクト』メンバー
訪問

乙部 遊氏 2016年3月まで10年間 New York で活躍



FaceBookより

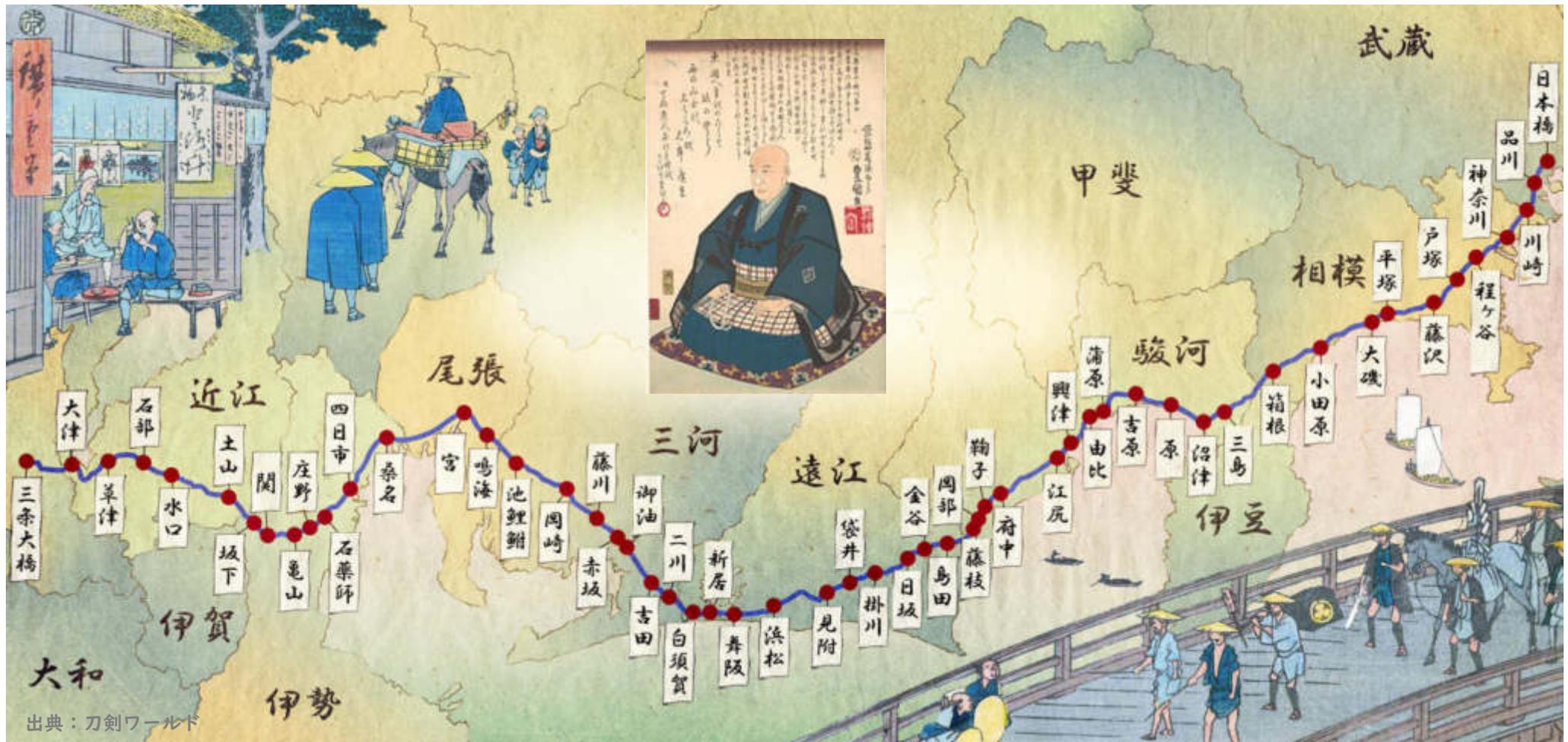
2020/10~2021/12 Eastside Transition によるの壁画アート作品 in 二宮



※ 藤沢市辻堂



3. 歌川広重 東海道五十三次からのAREA8.5





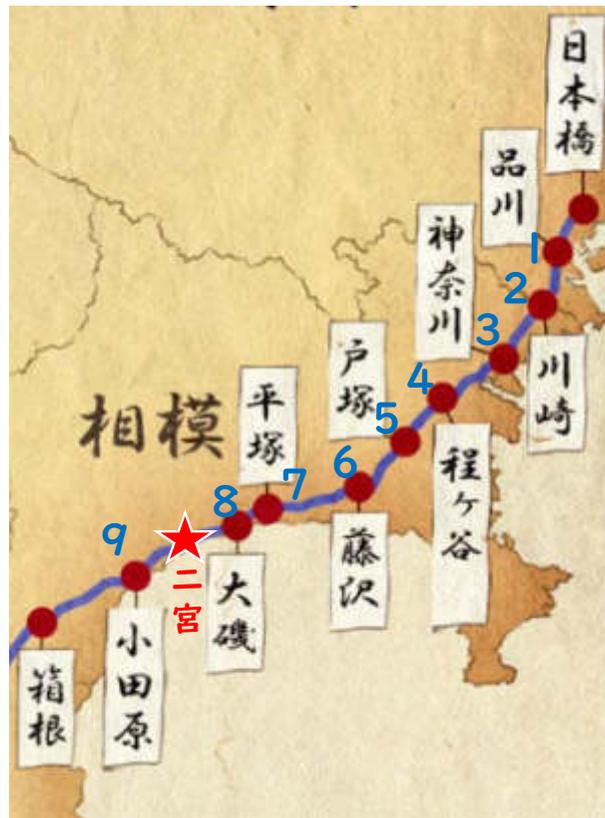
☆ AREA 8.5



9 小田原

8 大磯

8番目の宿場町が大磯、9番目の宿場町が小田原
その間にある二宮は“8.5”になる



7 平塚



6 藤澤



日本橋



1 品川



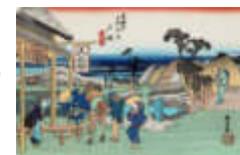
2 川崎



3 神奈川



4 程ヶ谷



5 戸塚

4. 葛飾北斎 富嶽三十六景に神奈川県二宮町

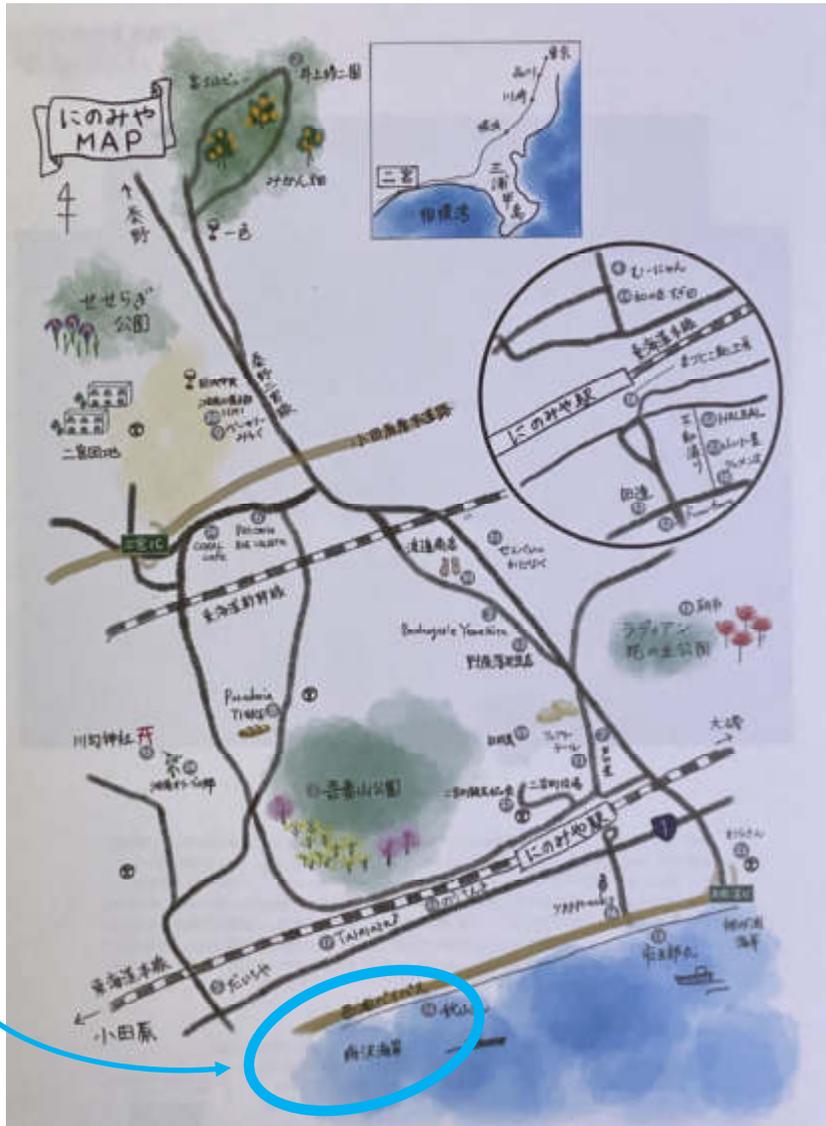


相州
梅澤左





二宮町
梅澤地区
梅澤海岸



伊豆半島 箱根

梅澤海岸

国道1号線
(旧東海道)

“8.5House”



5. フルサワ印刷 壁画プロジェクト

フルサワ印刷の外壁に壁画を検討 2021/8～

2021/8 二宮町袖ヶ浦海岸の地引網「市五郎丸」様の小屋の壁画



市五郎丸さんの壁画を見て
メッセージ性を重視したい



パタゴニア様、ミラカン様の影響で
海の環境（脱プラ・脱炭素）を意識
した浮世絵風の壁画をイメージも



Eastside Transition様と
2020/10に具体的会話をスタート
内容はお任せする



昨年 2021年11月に壁画アートを依頼

デザインは『富嶽三十六景 相州梅澤左』を中心に浮世絵でAREA8.5を表現

工期：2022年1月9日～1月23日

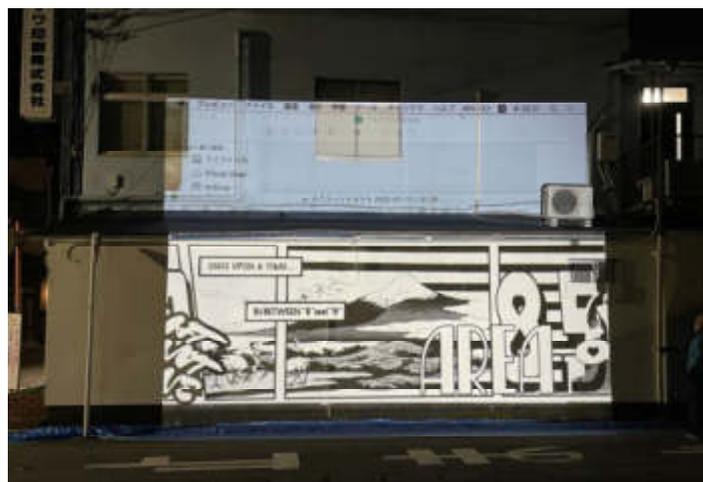


夜間作業



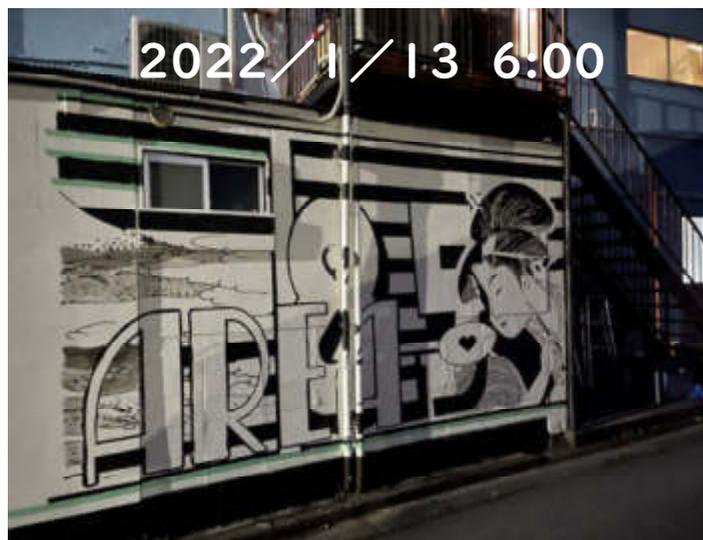
2022/1/12 22:00

設計図をプロジェクタで投影



右サイド1/3の大枠を制作

翌早朝



2022/1/13 6:00

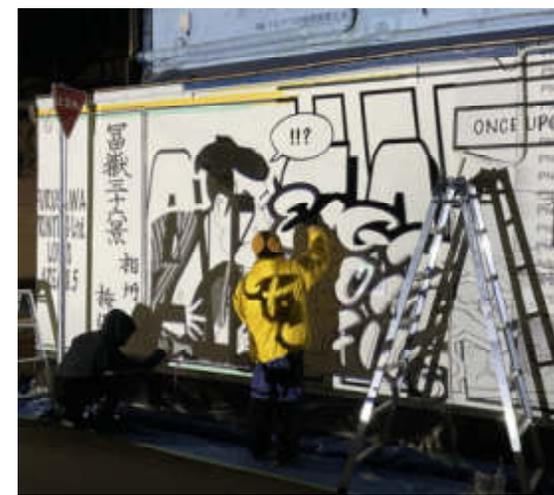
夜間作業



翌早朝



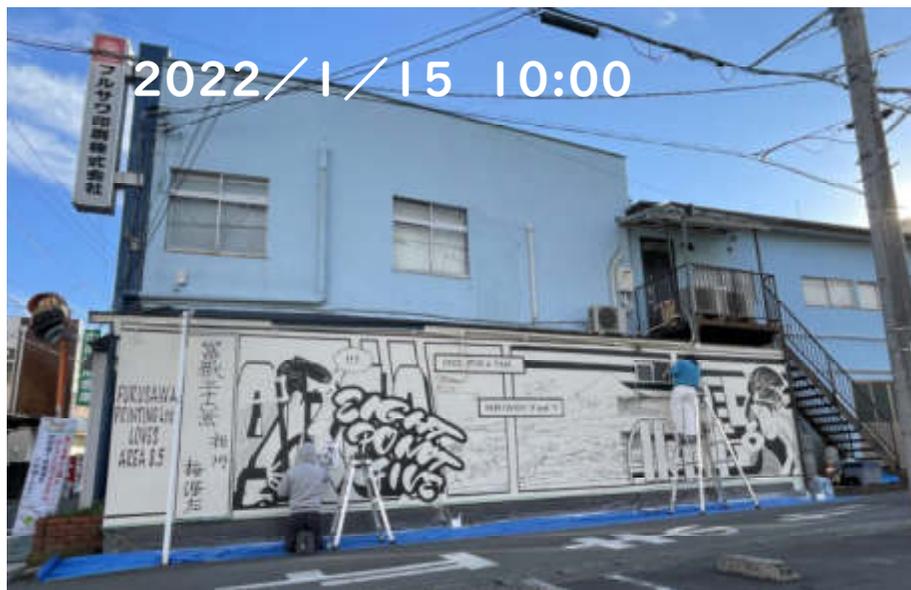
夜間作業



左サイド1/3の大枠を制作

翌早朝

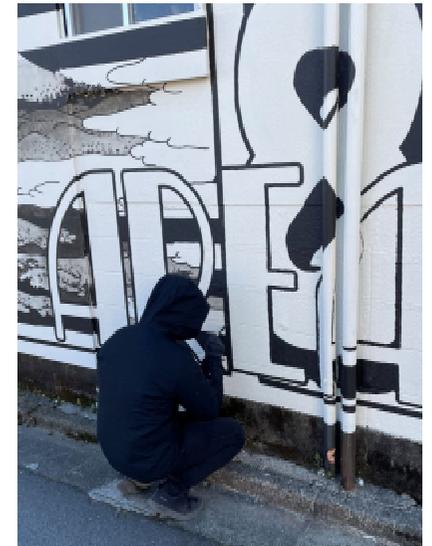




2022/1/16 10:00



土曜日には吾妻山に來訪された方々も注目



2022/1/23 完成

フルサワ印刷株式会社

富嶽三十六景
相舟
梅澤左



二宮=AREA8.5と言われるように、そして若者たち、子供たちの世代が二宮に誇りをもてるように

AREA8.5・二宮は、有機・オーガニックな『農業、食文化』が広がり、そして『Culture』や『Art』の潜在能力も高い

※フルサワ印刷周辺の一例

他にもたくさんの方々、事業者の皆さまがいらっしゃいます



吾妻山から富士山、相模湾を眺望

2014年～
お店の食堂で音楽の演奏会、絵や写真の展示会を開催



2020年～ 日用美
陶芸、木工、アパレル等さまざまな職人、デザイナーの商品を展示



演奏会、映画鑑賞会、講演会



for the next generations

